**いとうせいこう×奥泉 光**

**＜文芸漫談シーズン６＞**

**夢野久作『ドグラ・マグラ』を読んでみる**

この企画は、いとうせいこうと奥泉光が、小説の面白さを、笑いを取りながら伝えたいと、漫談形式で始めた文学ライブです。

芥川賞作家と稀代の仕掛人が捨て身でおくる、漫談スタイルの超ブンガク実践講座。

*小説の書き方・読み方がクスクスわかる？かも！*



2006年5月から年3回のシリーズで始まったこの会は、お客様に支えられながら16年間続いてきましたが、コロナ禍で2年間自粛しておりましたが、この4月より再開しました。

今回はその51回目。会場は演劇の街・下北沢です。

内容、構成はいたってシンプルで、作家・クリエーターとして活躍する“いとうせいこう”と、芥川賞作家であり大学教授の“奥泉光”が、名作と言われる文学作品を笑いを取り入れながら紐解いて行く漫談形式のトークショー（文芸漫談）です。

同類のトークショーのように、作品への理解を与えることにこそ違いはないのですが、そこに、博学がユーモアをまとったような二人の『笑い』が入ることにより、お客さまの興味をより深いところまで誘い、“豊かな文学”になるのでは、との試みです。

今回の「ドグラ・マグラ」は、1926年（大正15年）ごろ、九州帝国大学医学部精神病科の独房に閉じ込められた、記憶喪失中の若き精神病患者の物語（と思われる）であり「私」という一人称で語られていく。

彼は過去に発生した複数の事件と何らかの関わりを有しており、物語が進むにつれて、謎に包まれた一連の事件の真犯人や動機、犯行手口などが次第に明かされていく・・・・・。

何だ、それなら知っているよ！と、言われる方も、二人の手にかかると、こんな読み方もあったのかと納得いただけるものと思いますよ！

出演■**いとうせいこう／奥泉 光**

日時■**2022年11月12日（土）19：00開場／19：30開演**

料金■全席指定席　予約・当日共　☆2,500円

会場■北沢タウンホール（☎ 03-5478-8006）世田谷区北沢2-8-18

　　　　　　小田急線、京王井の頭線「下北沢駅」東口（中央口）より徒歩5分

ﾁｹｯﾄ問合せ■Ｋ・企画　（TEL＆FAX 03-3419-6318）

　　　　　　　HP < http://www.k-kikaku1996.com/work/bunman/index.html>

　　　　　■イープラス　< https://eplus.jp/>

　　　　　■チケットぴあ　Pコード：648589　< https://t.pia.jp/>

■カルテット予約フォーム

　　　　　　　https://www.quartet-online.net/ticket/bunman-51

主催■舞台よろず相談所 Ｋ・企画

※コロナ感染予防のため、ご来場の際は必ずマスクを着用してください。

　また、受付にて検温をさせていただきますが、37.5度以上の場合はご入場できませんの

で、あらかじめご了承ください。

**『ドグラ・マグラ』梗概**

1926年（大正15年）ごろ、九州帝国大学医学部精神病科の独房に閉じ込められた、記憶喪失中の若き精神病患者の物語（と思われる）であり「私」という一人称で語られていく。彼は過去に発生した複数の事件と何らかの関わりを有しており、物語が進むにつれて、謎に包まれた一連の事件の真犯人や動機、犯行手口などが次第に明かされていく・・・・・。

そうした意味では、既存の探偵小説の定石に沿っているが、その筋立てが非常に突飛である。

主人公とも言うべき青年が「ドグラ・マグラ」の作中で「ドグラ・マグラ」なる書物を見つけ「これはある精神病者が書いたものだ」と説明を受ける場面では、登場人物の台詞を借りて、本作の今後の大まかな流れが予告されており、結末部分までも暗示している。このことから、一種のメタフィクションとも評し得る。また、その結末はひとつの結論を導き出しているものの、あくまでも「主人公がそう解釈した」というだけで、それ以外にありうるさまざまな解釈を否定するものではない。

以上のことから、便宜上「探偵小説」に分類されているものの、そのような画一的なカテゴリには収まらない。また、「アンチミステリー」の一つと見做される場合もある。

一度読んだだけでは、作品の真相、内容を理解することは困難で、多くの読者が数度にわたって再読することが多い。上記の「ドグラ・マグラの作中のドグラ・マグラ解説シーン」でも「内容が複雑なため、読者は最低二度以上の再読を余儀なくされる」と語られている。

このような難解さから、多くの人が様々な解釈をしてきた。

**夢野久作(ユメノ キュウサク)　＜1889年～1936年＞**

日本の小説家、禅僧、陸軍少尉、郵便局長。

幼名は直樹（なほき）、出家名は杉山泰道（すぎやまやすみち）、禅僧としての名は雲水（うんすい）、雅号は萠圓、柳号は三八。

現在では、夢久、夢Qなどと呼ばれることもある。

夢野久作の筆名は、昔の福岡地方の方言で、夢想家、夢ばかり見る人という意味を持つ。

三大奇書の一つ『ドグラ・マグラ』をはじめ、ホラー、怪奇色、幻想性の色濃い作風で名高い。初期には『九州日報』で童話や今でいう一コマ漫画もかいた。

詩や短歌に長け、『白髪小僧』中の神話、『猟奇歌』のなどに代表される。

父親は政界の黒幕と呼ばれた玄洋社系の国家主義者、杉山茂丸。

長男はインド緑化の父と言われる杉山龍丸。

三男は童話作家の杉山参緑。

「夢野久作と杉山三代研究会」の杉山満丸は孫。

1936年（昭和11年）3月11日脳溢血で死亡、享年47。

**出演者紹介**

**【いとうせいこう】**

1961年、東京生まれ。早稲田大学法学部卒業。作家、クリエーター。

『ノーライフキング』で小説家としてデビュー。最新小説に『小説禁止令に賛同する』。主な作品に『想像ラジオ』『存在しない小説』『鼻に挟み撃ち他三編』。

ノンフィクション･対談集に『国境なき医師団を見に行く』『ラブという薬』『今夜、笑いの数を数えましょう』などがある。

その他、舞台・音楽・テレビなどで活躍中。

公式HP＝http://www.cubeinc.co.jp/ito/

**【奥泉 光】**

1956年、山形生まれ。国際基督教大学大学院修了。小説家･近畿大学教授。

『石の来歴』で芥川賞、『東京自叙伝』で谷崎賞、最新刊の『雪の階』では柴田錬三郎賞を受賞。

主な小説に『虫樹音楽集』『シューマンの指』『神器　軍艦「橿原」殺人事件』『グランド･ミステリー』など。

いとうせいこうとの共著に『文学の聖典』『世界文学は面白い｡』がある。

公式HP＝http://www.okuizumi.com/